

## デートを演出できる都市の特性に関する考察



H04057 中村 雄海  
指導教員 岩倉 成志

### 1. 背景と目的

東京都心の都市整備は経済優先の街づくりが進められ、男女が豊かな時間を過ごすことができる都市空間が極めて少なく、社会人の平日デートはバーやレストランなどの施設の利用が大半になっていると感じる。デート時間の確保も難しい中で、デートを行うのに適した都市空間が少ないことは、晩婚化や少子化の促進の一因になると考える。心理学分野で都市をデートの視点で把握した研究がごく僅かあるものの、その種の研究は皆無に近い。よって、その様な視点で都市を分析することが重要と考えた。

以上より本研究では、若手の社会人を対象としたインタビュー調査を行い、デートに利用される街の評価を行うことで、都市がデートの雰囲気を出すために必要な特性を見つけ出すことを目的とする。

### 2. インタビュー調査

#### 2-1. 調査概要

社会人のデート選択場所と都市特性に対するニーズを把握するため、対面インタビューおよびアンケート調査を実施した。同時に、平日のデートのパターンを答えられる範囲内で回答してもらった。本研究では東京都心内のデートに必要な都市特性を見つけることを目的としているため、都内でデートをした経験のある20代、30代の社会人を対象としている。結果、対面インタビューでは22サンプル(男性13名 女性9名)、アンケート調査では18サンプル(男性10名 女性8名)、総数40サンプルを得ることができた。

#### 2-2. 調査結果

表1は社会人の平日デートパターンを示した表である。表1より、社会人の平日デートでは食事後に帰宅するパターンが圧倒的に多いことがわかる。このため社会人の平日デートでは、このパターンを満たす都市特性が求められているのではないかと推測できる。

表2は社会人の都市特性に対するニーズを総人数で

上位5位まで示した表である。この表より、交通の便と食事施設の充実といった特性が非常に多く望まれていることがわかる。これらの特性は食事後帰宅するデートパターンには欠かすことができず、表1、表2の結果から社会人の平日デートに利用される都市には必須の特性であると考えられる。また、男性より女性の方が様々な特性にニーズが分散しており、女性は都市に多様性を求めていることがわかる。「就業後ではデートに多くの時間を割くことができないため、勤務地や自宅の近くに」「相手も自分も次の日に仕事があるため、二人にとって都合のよい場所を選択する」といった意見も多く得ることができた。以上より、社会人の平日デートには時間的制約が大きいことを指摘できる。

表3は平日にデートで利用する場所と雰囲気が良いと回答された場所とを総人数で上位5位まで比較した表である。この表から、各場所の順位が一致していないことがわかる。この結果は、雰囲気が良い場所であっても「交通の便」・「食事施設の充実」といった特性

表1 平日デートパターン

	デートパターン	男(人)	女(人)	総数(人)
1位	食事 帰宅	8	6	14
2位	食事 遊び 帰宅	4	3	7
3位	食事 散歩 帰宅	3	0	3
4位	食事 買い物 帰宅	1	1	2
4位	買い物 食事 帰宅	0	2	2
4位	遊び 食事 帰宅	1	1	2
7位	食事 ドライブ 帰宅	1	0	1
7位	買い物 食事 散歩 帰宅	0	1	1
7位	遊び 食事 遊び 帰宅	1	0	1

表2 都市特性のニーズ

	必要要素	男(人)	女(人)	総数(人)
1位	交通の便(鉄道)が良い	16	13	29
2位	食事のできる場所が充実している	14	8	22
3位	人が少ない	7	5	12
4位	街中にイルミネーションがある	4	7	11
5位	買い物施設が充実している	5	4	9

表3 平日利用される場所及び雰囲気の良い場所

平日利用する場所	男(人)	女(人)	総数(人)	雰囲気の良い場所	男(人)	女(人)	総数(人)
1位 池袋	3	8	11	1位 お台場	4	5	9
2位 新宿	6	5	11	1位 六本木	4	5	9
3位 銀座	7	2	9	3位 銀座	5	1	6
4位 渋谷	5	2	7	4位 表参道	3	2	5
5位 表参道	4	1	5	5位 池袋	2	2	4
5位 六本木	3	2	5	5位 吉祥寺	2	2	4

が欠けた場合、使用されないといった現状を表していると考えられる。つまり、平日デートに利用される場所を整備するには少なくともこの二つの特性を満たす必要がある。

### 3. 現地調査

#### 3-1. 調査概要

都市内デートの質を左右する特性を把握するために、独自に作成した表4に示す評価項目を用いて後述の街を評価した。評価項目については5段階で評価(多い・高いを5, 少ない・低いを1)を行い、主成分分析によって街を類型化した。対象は東京都内で雰囲気の良い街としてインタビュー調査で挙げられたお台場・六本木・銀座・表参道・竹芝・西麻布, また都内ではないがデートに優れた街として挙げられる横浜を含め7地域とした。

#### 3-2. 都市特性分析結果

表4に各評価項目と第一・第二主成分の固有ベクトルの値を示す。第一主成分については、水辺空間や展望ポイント・ライトアップなどの特性に重きが置かれていることがわかる。このことから第一主成分は街のデザイン性を示していると考えられる。第二主成分については、街の歩き易さや街中の人の量・夜間営業店舗数などの特性に重きが置かれている。このことから第二主成分は街の経済消費性を示していると考えられる。

第一・第二主成分の累積寄与率は80.1%と大きな値を示している。特に第一主成分については59.9%となっており、街の雰囲気の良いの質を考えるうえでの主要な軸であると判断することができる。

図1は第一主成分と第二主成分の固有値ベクトルから求めた主成分得点によって、各街をプロットした図である。

#### 3-3. 都市のデザイン性

寄与率の高かった第一主成分に関しては図1より、Aグループの点数が高く、Bグループの点数が低いことがわかる。また、各項目の評価値を用いて各街の相関係数を抽出したところ、Aグループ内およびBグループ内で0.5以上の相関が得られ、第一主成分におけるAグループ内とBグループ内の主成分得点の平均値の差は有意水準95%で有意であった。この結果から、Aグループの街は街のデザインとしてデートの雰囲気を出しているのに対して、Bグループの街は街の中に存在する店

舗が独自にデートの雰囲気を創出していると考えられることができる。

以上の結果を踏まえ、竹芝と銀座の二例の改善の方向性を述べる。竹芝は、街のデザイン性が高いが大きな欠点として交通の便と食事施設の乏しさが挙げられる。この欠点を改良した整備を行うことにより、横浜のようなデート利用に優れた街として変化すると考える。対して銀座には、独特な店舗と交通の便は充実しているが街のデザイン性が低いといった欠点が挙げられる。水辺空間の確保は難しいが、夜景を臨めるような公開空地を確保することで、デートに優れた街として変化できると考える。

表4 第一・第二主成分固有値ベクトル

第一主成分		第二主成分	
水辺空間	0.997	歩き易さ	0.752
展望ポイント	0.985	人の量	0.702
ライトアップ	0.967	夜間営業店舗	0.701
モニュメント	0.964	独自性	0.676
ベンチ	0.960	変化性	0.643
オープンスペース	0.941	飲食店	0.621
二人きりのスペース	0.869	照度	0.532
清潔感	0.826	イベント量	0.514
緑	0.811	清潔感	0.508
イベント量	0.727	レジャー施設	0.462
統一感	0.725	緑	0.449
街頭の売店	0.655	イルミネーション	0.437
独自性	0.546	街頭の売店	0.335
歩き易さ	0.464	オープンスペース	0.208
レジャー施設	-0.189	展望ポイント	0.133
飲食店	-0.311	モニュメント	0.103
変化性	-0.474	建築密集度	0.094
人の量	-0.627	統一感	0.057
夜間営業店舗	-0.656	ライトアップ	0.008
照度	-0.806	水辺空間	-0.011
イルミネーション	-0.848	ベンチ	-0.039
建築密集度	-0.949	二人きりのスペース	-0.171

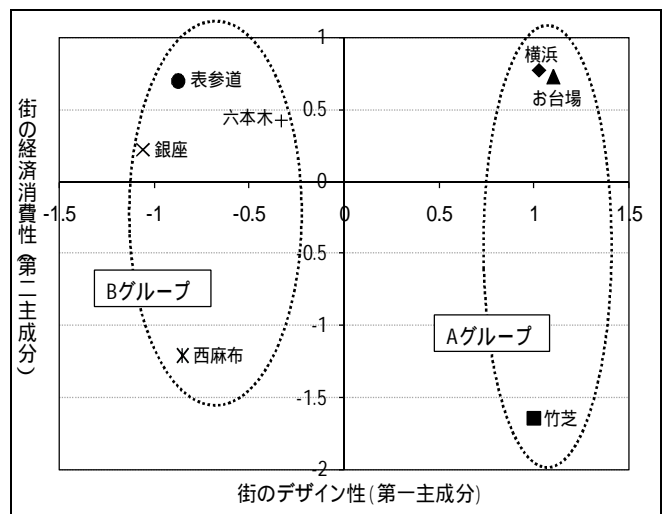


図1 主成分得点による街プロット図

### 4. まとめ

本研究により、デートで利用される都市に必須の都市特性、デートを演出する特性を把握することができた。今後この視点を持ち都市整備を行うことにより、デートに優れた都市の開発の一助となると考えられる。